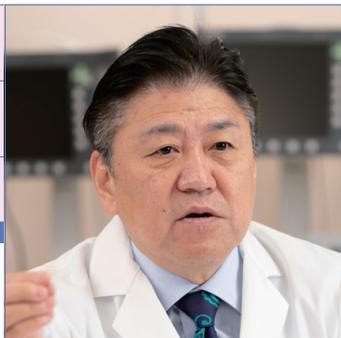


# 国立がん研究センター

## 技術開発で医療の壁を越えて 「がんに負けない国へ。」



国立がん研究センター東病院  
副院長  
NEXT医療機器開発センター  
医療機器開発推進部門長  
伊藤雅昭 先生

国立がん研究センターは約60年に渡り、日本のがん医療をリードし続けている。なかでも先進的な医療機器開発に取り組むのが、同センター東病院に設置されたNEXT医療機器開発センター(以下、NEXT)だ。

### 医師不足への打ち手となる 国産手術支援ロボット

世界に先駆けた技術開発でがん医療を効率化し、患者さんのQOL向上に貢献していく。国立がん研究センター東病院に設置されたNEXT医療機器開発センターは、先進的な医療機器を生み出す開発拠点だ。

NEXT医療機器開発推進部門長の伊藤雅昭先生は「病院内に開発拠点を置くことが最大の強みです。現場を熟知した医師が主導するため、インパクトのある技術開発が可能。ここから複数の医療スタートアップが生まれています」と語る。

伊藤先生自身、外科医としての経験を基に手術支援ロボットの開発を手掛けた。東大学の研究者とともに医療ベンチャー

を立ちあげ、2023年に腹腔鏡手術支援ロボット「ANSUR(アンサー)」を世に送り出した。通常の腹腔鏡手術は医師3人を必要とするが、アンサーが助手役を務めれば医師1人で執刀できる。また遠隔操作型の手術支援ロボットに比べると低コストなのも利点だ。がん手術はもちろん医師不足が懸念される地方の医療現場を支える技術としても期待がかかる。

**熟練医のデータを生かして  
AIが手術をサポート**

AIを生かした技術創出にも力を注ぐ。その一つが、国立がん研究センター発ベンチャーのJames(ジェイミーズ)による、内視鏡手術支援プログラムだ。手術中に切除してはいけない部位を見える化するシステムで、24年に薬事承認を取得した。手術の巧拙は執刀医の技量に頼る部分が大きかったが、AIが客観的なガイドラインを示すこ

とでより安全な手術が可能になる。

NEXT発の新たな医療機器は、日本の医療が抱える課題を解決する可能性を秘めている。「みなさんの寄付は長期的な研究開発の助けになります。頂いた寄付にふさわしい価値を社会に還元するとお約束します」



国立がん研究センター  
東病院外観

### お問い合わせ



### 国立がん研究センター基金 The National Cancer Center Foundation

国立がん研究センター 築地キャンパス 寄付係

☎03-3547-5333

メール:ncckifu@ncc.go.jp

国立がん研究センター 柏キャンパス 寄付係

☎04-7133-1111 (内線91460)

メール:kifu@east.ncc.go.jp

